

4 飛鳥宮跡の現況

検討の対象としている飛鳥宮跡の現況について整理

1) 史跡整備の状況

飛鳥宮跡では、史跡区域のうち県有地において、上層内郭遺構の北東及び南東隅部の史跡等保存整備を実施している

(1)内郭北東隅部（昭和47年度）

内郭北面及び東面大垣、及び建物遺構2棟について、円柱（H500）及び低木植栽による遺構表示
井戸の復元、石敷舗装

(2)内郭南東隅部（平成6年度）

内郭一本柱塀及び建物遺構2棟、塀跡、石組溝、張芝

2) 飛鳥宮跡活用の状況

(1)イベント利用の状況

毎年夏のライトアップイベント『飛鳥光の回廊』の会場として活用

(2)案内等の状況

ボランティアガイドによる解説・案内を実施
タブレット端末を使ったバーチャル画像による案内（事前申込み制）

(3)解説板等の状況

既整備のエリア（2ヶ所）に、解説板各1基を設置
※情報量に限りがある



◆史跡整備の状況



5 飛鳥宮跡における景観①

飛鳥宮跡における景観の現況を整理

1) 飛鳥宮跡内部から周辺を見た景観

飛鳥宮跡の景観を検討する際には、①宮跡内から周辺がどう見えるか、②周辺から宮跡がどう見えるか、の双方向の視点からの配慮が必要である

飛鳥宮跡内部から周辺を見た場合の景観の主要な構成要素

- ・ 宮跡北側には農地が広がり、その向こうに大和三山や甘樫丘など古代と変わらない景観が見える
- ・ なお、南側には、集落の家並みが見える



5 飛鳥宮跡における景観②

2) 周辺の主要な視点場から飛鳥宮跡を見た景観

「真神原」外周の丘陵地をはじめ、飛鳥宮跡を見下ろす視点場が点在している

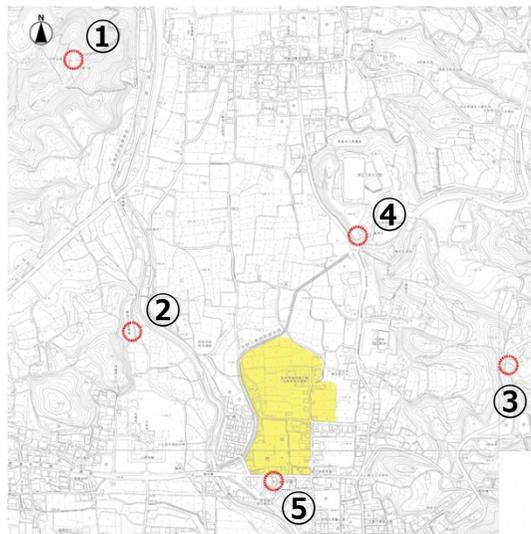
- ① 甘樫丘展望台
- ② 川原寺寺域北限
- ③ 主要地方道桜井明日香吉野線（岡寺付近）
- ④ 万葉展望広場
- ⑤ 明日香村庁舎屋上



①甘樫丘展望台より



②川原寺寺域北限より



③桜井明日香吉野線(岡寺付近)より



④万葉展望広場より



⑤明日香村庁舎屋上より

5 飛鳥宮跡における景観③

飛鳥宮跡の活用を検討する上での景観の考え方を整理

3) 活用における景観の考え方

(1) 明日香村景観計画を踏まえた飛鳥宮跡の景観の考え方

- 明日香村の歴史的風土景観の重要な構成要素
 - ・ 地下に存在する「今は見えない」遺跡と「見える」景観が一体となって歴史的風土景観を形成する、明日香村の景観の中心的な場
 - ・ 『真神原』の周囲に展開するきめ細かな変化に富んだ景観を一望できる場
- 「見る・見られる」双方向の代表的な視点場
 - ・ 明日香村の景観を体感でき、最も理解しやすい場

(2) 大切にしたい景観

- 古代から受け継がれてきた山並み（地形）
 - ・ 古代の人々が見た風景を、現代人も共有できる場所
 - ・ 飛鳥宮跡及び明日香村の「価値」の一つとして将来に伝えたい景観
- 守られてきた景観
 - ・ 飛鳥宮跡から山並みを見渡す眺望
 - ・ 山並みの手前に広がる田園や集落の風景

(3) 活用における景観の考え方

- 飛鳥宮跡の利活用においても、歴史的風土の保全・継承を最優先課題とする
 - ・ 活用のための施設を設置する場合でも、景観の支障とならない位置・規模（高さ・長さ）・デザイン等の検証を行う
- 飛鳥宮跡から「見える」景観の保全・活用だけでなく、甘樫丘など周辺の視点場からの「見え方」にも配慮する
 - ・ 景観の双方向性を意識した利活用
- 古代から変わらない景観と、人々の暮らしの中で変えられ、また守られてきた現在の景観を、よりよいものにして未来に継承できるよう 飛鳥宮跡の活用を検討する
- 飛鳥宮跡から見える景観を活用に活かす
 - ・ 飛鳥宮跡内から見える景観を解説するコンテンツの開発
 - ・ 万葉集に詠われた場所など、視点場の特性を活かした活用を検討する



◆万葉歌碑

6 飛鳥宮の変遷

飛鳥宮の変遷について整理

	天皇正宮			その他の宮									
	飛鳥以外の宮		飛鳥諸宮	飛鳥以外の宮									
	豊浦宮	小墾田宮	飛鳥岡本宮	飛鳥板蓋宮	後飛鳥岡本宮	飛鳥浄御原宮	飛鳥河辺行宮	飛鳥川原宮	耳梨行宮	田中宮	厩坂宮	嶋宮	
推古	592	603										601	
舒明			630 I期遺構 火災									636	640 (吉備姫王)
皇極	642	641	643 II期遺構										
孝徳			645 (難波遷都)									653	
斉明	(瓦葺)		655 火災									655	(糠手姫皇女)
天智			656 III-A期遺構										
			(大津遷都)										
天武	(兵庫)		667										
			672 III-B期遺構										
持統			694										(草壁皇子)

図5・飛鳥諸宮の変遷
『日本書紀』にみえる7世紀の宮の変遷を図にしたもの。正宮のうち「飛鳥」を冠するものがI期～III期遺構に該当し、継続的に営まれたことがわかる。

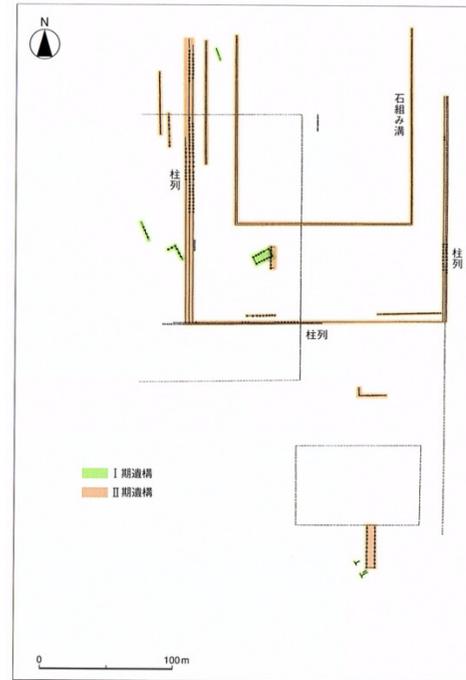


図6・I期・II期遺構図
方位が北で西へ20度ほど振れている遺構がI期遺構。東西南北方位を合わせた遺構がII期遺構である。どちらも検出事例が少しいが、III期遺構と重複していて、同じ場所に繰り返し宮が営まれたことがわかる。

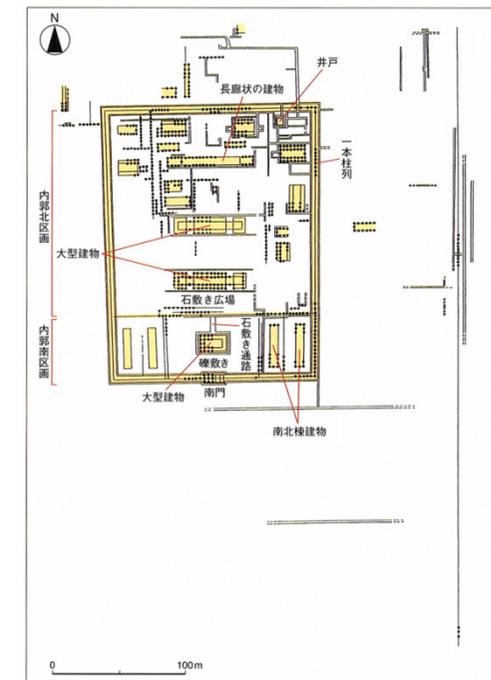


図12・III期遺構(斉明朝)
内部が宮の中核部で、南北2つの区画に分かれている。南北で建物の構成や地面の舗装方法などが異なっていて、施設の種類に違いがあったことがわかる。

出典：新泉社 鶴見泰寿著 「古代国家形成の舞台 飛鳥宮」

第I期遺構： 飛鳥岡本宮	<ul style="list-style-type: none"> ● 舒明天皇が造営した宮跡 ● 掘立柱建物跡、掘立柱塀跡、石敷、石組溝など ● 自然地形に合わせ、方位が北で20度西へ振れている
第II期遺構： 飛鳥板蓋宮	<ul style="list-style-type: none"> ● 皇極天皇が造営した宮跡 ● I期遺構の跡地を造成して正方位に造られている ● 回廊状の方形区画で、第III期の内郭よりも大規模な区画を持つ ● III期遺構の下層にあるため詳細は不明
第III期遺構： III-A期 後飛鳥岡本宮	<ul style="list-style-type: none"> ● 斉明天皇が造営した宮跡 ● 東西152～158m、南北197mの内郭を中心に、南北約800m(推定)、東西約300～450mの外郭がある ● 内郭の周囲は屋根付きの掘立柱塀が囲み、内郭南よりに位置する東西方向の掘立柱塀によって南と北の区画に分かれる ● 内郭南区画では、内郭全体の正門となる南門、南北建物等が検出されている ● 内郭北区画では、二つの大型建物(南の正殿、北の正殿)の他、多くの掘立柱建物が確認されている
第III期遺構： III-B期 飛鳥浄御原宮	<ul style="list-style-type: none"> ● 天武天皇・持統天皇の宮跡 ● III-A期の施設に加え、内郭南東に新たな区画(エビノコ郭)を造営 ● 東西約94m、南北約55mの一本柱塀に囲まれた区画の中央に飛鳥宮跡最大規模のエビノコ大殿がある